



# 華となれ!

宮城県仙台二華中学校  
学校だより 第3号  
【発行日】 令和2年7月31日  
【連絡先】 022-296-8101  
【文責】 副校長 加茂 博行

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ!」には、社会に貢献できる真のリーダー（「華」＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

## 中高生の秀作を展示 メディアテークで「二つ展」開催

7月24日（金）～26日（日）に仙台メディアテークにおいて、本校中高美術部が主催する「二つ展」が行われました。「二つ展」は、新型コロナウイルスの影響で、昨年度の2月から延期されていましたが、このたび感染予防対策に十分配慮した上で、開催にこぎ着けました。今年度、県立高校の美術展としては、最初に開催されたものとなります。

当日は、感染予防のために、入場時には検温と手指の消毒をお願いし、万が一に備えて、来場者には自宅の住所の記入にも協力いただきました。例年は館内で記入していただいていた感想についても、感染予防の観点から、今年はQRコードをかざして、スマートフォンから記入していただく方式へと変更しました。

本校の美術部は、中高とも県内屈指の実績を上げており、その作品は数々の美術コンクールで上位入賞を果たしています。今回は、それらの受賞作品だけでなく、映像作品や、立体オブジェ作品など、趣向を凝らした作品も展示されました。

来場された方々は、生徒の力作に見入って「素晴らしいね」、「学生さんが描いたなんて、信じられないね。」などと、感嘆の声をもらしていらっしゃいました。展示作品の多くは高校生の作品でしたが、中学生のコーナーも設けられ、素晴らしい出来栄に、目を奪われました。

新型コロナウイルス感染予防対策のために、中総体をはじめ、多くの体育的行事が中止となりました。メディアでは、中総体や高総体の中止や、高校野球の代替大会に関する報道ばかりが目立ちますが、美術部や音楽部などの文化部も発表の場を失い、充実感を得られないでいるのは同じです。

今回、二つ展を運営した美術部の中高生の表情には、充実感と達成感が表れていました。開催までには、たいへんな苦勞がありましたが、大成功の二つ展となりました。



3日間の来場者は368人でした。



中学生による合同作品

## あなたの母国はどんな国ですか

1年生で「世界の国からこんにちは」開催

7月21日(火)に、1年生の総合的な学習の時間において、「世界の国からこんにちは」が実施されました。この行事は、1年生のIS(インターナショナルスタディ)のスタートとなる行事です。ISとは、本校の総合的な学習の3本柱のうちの1つで、「国際的な視野で地球環境について探究しながら、情報活用と英語による表現力を育む」ことを目的としています。

今回は、アルゼンチン・アメリカ・シンガポール出身の外国人の方々を講師として招いて、自国の紹介をしていただきました。生徒たちはそれぞれの講師から25分ずつ話を聞いて、興味をもったことについて、習ったばかりの英語を使って質問をしていました。1年生では、この行事の他にも、「世界の食糧事情」等のワークショップを行い、国際的な視野を楽しみながら身に付けていきます。中学生のうちに、異文化を理解し、様々な事象を多角的に見つめる力を身に付けて、本校からグローバルリーダーが誕生することを願っています。



興味津々に聞き入る生徒たちの様子

## 北上川FWに思いをはせて

本校OG伊藤准教授から講話



伊藤先生の話聞く2年生の生徒たち

7月16日(木)に、学校評議員の伊藤絹子先生から、2年生を対象に「生命を支え地球環境を守る生態系～汽水域生態系を例として～」をテーマに講話をいただきました。伊藤先生は、東北大学大学院農学研究科の准教授で、本校の前身である宮城県第二女子高校の卒業生でもいらっしゃいます。

講話では、汽水域に広がる葦原が、様々な鳥類の住処になっているばかりか、窒素やリンを吸収し、水質浄化機能が高いことなどが紹介されました。生徒たちは北上川汽水域に広がる

葦原を頭の中に思い描いて話を聞いたことと思います。ある生徒は「非致死性食物連鎖について初めて知りました。復元可能な貝の水管のみを魚が食べていることに驚きました。FWにはいけませんでしたが、現地に行ってその場で生物を見て来たような気持ちになれました。」という感想を紹介してくれました。

7月8日(水)に予定されていた、北上川FWは2年生が楽しみにしていた行事でしたが、当日に大雨が降り、残念ながら実施できませんでした。もし、8日に実際に葦原を実際に見て、予定されていた葦原の移植の作業をしていれば、生徒たちの理解は一層深まったと思います。

現在、理科の教員と相談をしながら、秋頃に北上川FWを開催できないかについて検討中です。2年生で行う北上川下流でのFWが、高校1年生で行う北上川上流でのFWへとつながり、さらにはメコン川FWへと続く大事な行事だからです。

干潟の観察に適した大潮(最も潮の干満が大きいこと)の日を調べながら、開催できる日時や、その時期に適したプログラムを考えています。今度こそ天気にも恵まれることを願っています。